

## 飼料用米品種の安定多収が得られる移植期・栽植密度・施肥法

[要約]「夢あおば」は5月下旬～6月中旬、「ホシアオバ」は5月下旬に移植し、窒素施肥量を「コシヒカリ」標準栽培プラス6kg/10aの多肥にすることで、倒伏を抑えながら粗玄米重700kg/10a以上の収量確保が可能である。栽植密度は40～60株/坪の範囲であれば、収量と倒伏に対する影響は小さい。

農業総合センター農業研究所	平成26年度	成果区分	技術情報
---------------	--------	------	------

### 1. 背景・ねらい

主食用米の需給調整や食糧自給率向上等のため、飼料用米は増産や安定生産が求められている。また、生産現場においては、主食用米との混入防止から、主食用米より遅い作期での栽培が推進されている。また、県西を中心としてイネ縞葉枯病の発生が懸念されることから、イネ縞葉枯病抵抗性の早生品種「夢あおば」、中生品種「ホシアオバ」について、遅植え条件における粗玄米重700kg/10aの実収を想定した安定栽培法を検討する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 「夢あおば」は、「コシヒカリ」標準栽培プラス6kg/10a（基肥窒素9kg+穂肥窒素5kg/10a、穂肥は出穂前20日に施用）の施肥条件（以下多肥条件）において、5月下旬移植では粗玄米重800kg以上、6月中旬移植では粗玄米重750kg/10a程度が得られ、倒伏程度は両移植時期とも小さかった。栽植密度40～60株/坪（株間18～22cm）の範囲において、収量と倒伏に対する影響は小さかった（表1、図1）。
- 2) 「ホシアオバ」は多肥条件の5月下旬移植において、粗玄米重が概ね900kg/10a以上を達成し、倒伏程度も小さかった。一方、6月中旬移植では、粗玄米重の低下が大きく、倒伏程度も大きくなった。収量と倒伏に対する栽植密度の効果は「夢あおば」と同様であった（表1、図1）。
- 3) 穂肥の省力化を図るため、「夢あおば」、「ホシアオバ」とも基肥窒素を速効性肥料で14kg/10a施用し、穂肥を施用しない施肥法を行ったところ、5月下旬移植であれば、両品種とも粗玄米重750kg/10a以上が得られた。ただし、基肥穂肥体系に比べて「夢あおば」の減収程度は小さいが、「ホシアオバ」では大幅に収量が低下する（表1、図1）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 水田利用研究室（中粗粒灰色低地土、龍ヶ崎市）における手植え、坪刈り収量の単年の試験結果である。
- 2) 水田利用研究室における標準栽培「コシヒカリ」（4月下旬～5月上旬移植）の総窒素量は8kgである。なお、10aあたり総窒素量14kgは、その1.8倍に相当するが、各地域の地力や生育に応じて調節する。地力を補うため、4月23日に豚ふん堆肥150kg/10aを施用している。
- 3) 水管理は、中干しを「コシヒカリ」標準栽培と同様に実施し、間断灌漑を成熟期直前まで実施した。
- 4) 遅植えの5月下旬、6月中旬移植は、病虫害（イネツトムシ、カメムシ、いもち病）による被害を受けやすいため、適期、適切な防除に努める。

#### 4. 具体的データ

表1 移植期・栽植密度・施肥法の違いが収量等に与える影響(H26年)

品種名	移植期 (月/日)	施肥窒素量 (kg/10a)		栽植密度 (株/坪) (株間cm)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂 粒数 (粒/穂)	粗玄米 重 (kg/10a)	収量比 (%)	千粒重 (g)	倒伏 程度 (0-5)
		基肥	穂肥											
夢あお ば	5/22	9	5	60 (18) (対照)	7/28	9/21	87	23	350	125	857	100	25.0	0.0
				50 (22)			87	24	323	143	802	94	25.4	0.0
				40 (28)			88	24	352	128	839	98	24.9	0.0
	6/17	14	0	60 (18) (対照)	7/28	9/21	91	21	422	114	810	95	24.3	0.0
				50 (22)			93	20	334	116	751	100	24.8	0.5
				40 (28)			95	21	302	135	749	100	24.7	0.5
ホシ アオバ	5/22	9	5	60 (18) (対照)	8/5	10/11	101	24	327	132	935	100	29.0	0.8
				50 (22)			103	23	324	143	898	96	28.8	0.5
				40 (28)			100	23	286	147	927	99	29.1	0.5
	6/17	14	0	60 (18) (対照)	8/5	10/9	108	21	359	118	771	82	28.0	0.5
				50 (22)			110	21	298	106	729	100	30.9	2.3
				40 (28)			113	21	286	122	721	99	30.9	2.8
6/17	14	0	60 (18) (対照)	8/25	11/15	119	19	348	70	618	85	28.2	3.9	
			50 (22)			114	21	286	121	733	101	30.2	2.3	
			40 (28)			114	21	286	121	733	101	30.2	2.3	

注) 使用肥料 基肥：オール 14、穂肥：NK-C6号、穂肥は出穂20日前に施用  
倒伏程度：0(無)～5(甚)の6段階評価  
千粒重：1.85mm篩で調製後の値

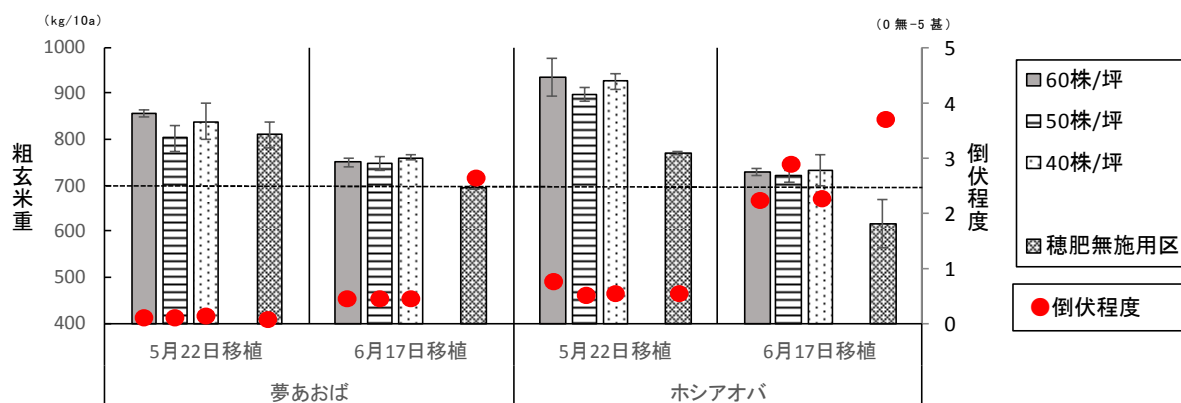


図1 移植期、栽植密度、施肥法の違いが収量・倒伏程度に与える影響(H26年)

注)表1に準ずる

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

縞葉枯病抵抗性飼料用米品種の選定と安定多収栽培技術の確立・平成26～平成28年度・水田利用研究室